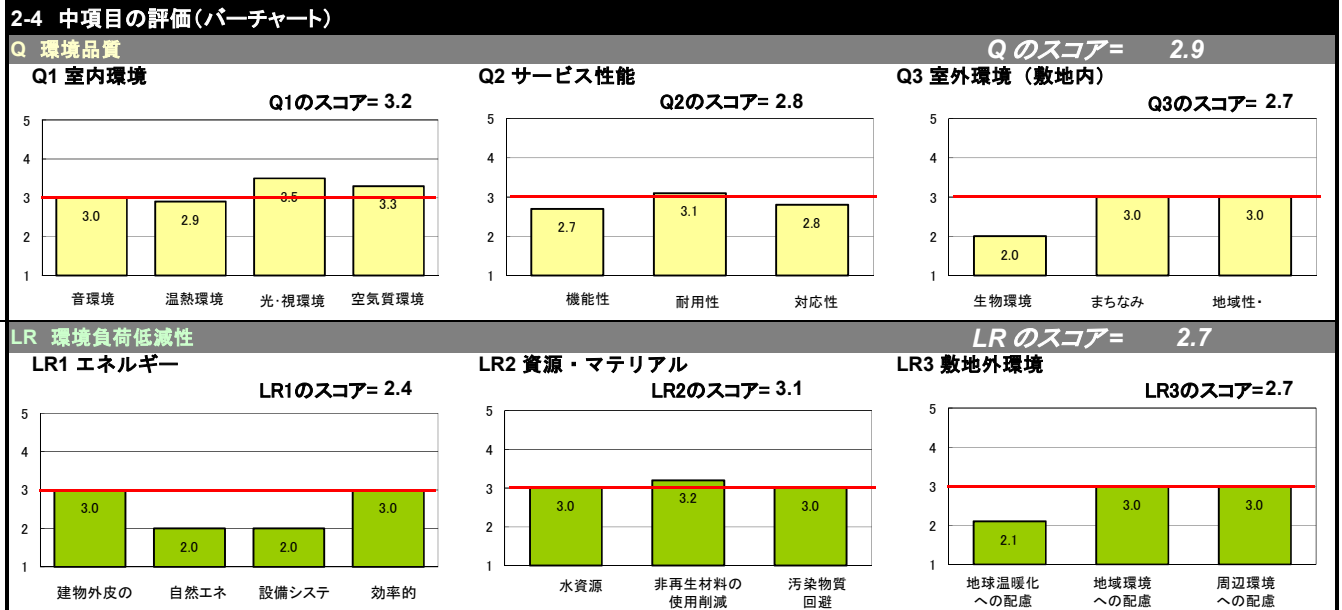
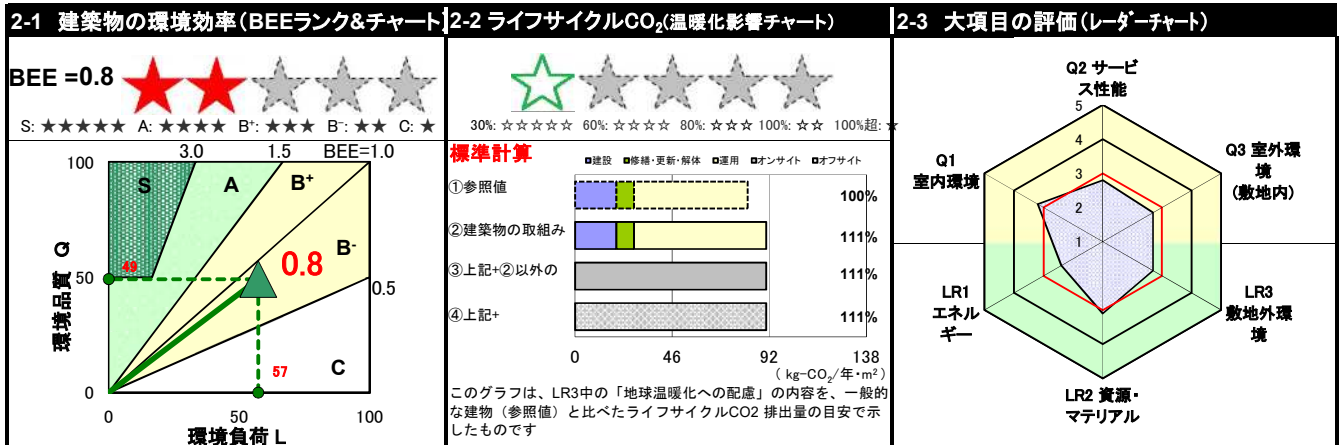


川崎市建築物環境配慮制度受付番号 25005

建築物名称	(仮称)武蔵中原プロジェクト新築工事
建築主	株式会社THEグローバル社 代表取締役 岡田 圭司
建築物の所在地	川崎市中原区下小田中三丁目1105番2
設計者氏名、建築士事務所名	塩川 博一 生和コーポレーション株式会社 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	4,953.33㎡
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上5階
工事完了予定年月	令和8年9月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)武蔵中原プロジェクト新築工事	階数	地上5F
建設地	川崎市中原区下小田中三丁目1105番2	構造	RC造
用途地域	第二種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	200 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年9月 予定	評価の実施日	2025年5月1日
敷地面積	2,295 m ²	作成者	塩川博一
建築面積	1,257 m ²	確認日	2025年5月1日
延床面積	4,953 m ²	確認者	塩川博一
		外観パース等 図を貼り付けるときは シートの保護を解除してください	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-川崎2025(v.1.0)

(仮称)武蔵中原プロジェクト新築工事

25005

重点項目についての環境配慮概要			実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計		重点項目への 貢献点 注) (5点満点)	
内訳対応項目		各項目について配慮した内容を記述してください。				
緑の保全・回復(G)			Gの平均点		2.8	
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策						
1 生物環境の保全と創出		川崎市緑化指針の基準以上の緑化を計画				
2 まちなみ・景観への配慮		植栽により良好な景観を形成している		2.3/4.3		2.6
3 3.2 敷地内温熱環境の向上		緑被率、水被率、中・高木の水平投影面積率30%以上				
LR-3 ■ 敷地外環境対策						
2 2.2 温熱環境悪化の改善		地表面対策面積率45%以上		0.5/0.8		3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)			Wの平均点		2.9	
Q-1 ■ 室内環境対策						
2 2.1 2.1.2 外皮性能		等級4		2.6/3.6		3.6
3 3.1 3.1.3 屋光利用設備		－				
3.2 3.2.1 屋光制御		カーテンと庇により制御				
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策						
1 生物環境の保全と創出		川崎市緑化指針の基準以上の緑化を計画		1.1/2.3		2.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上		緑被率、水被率、中・高木の水平投影面積率30%以上				
LR-1 ■ エネルギー対策						
1 建物外皮の熱負荷抑制		等級4		2.4/5.0		2.4
2 自然エネルギーの利用		－				
3 設備システムの高効率化		仕様基準を満たす				
4 効率的運用		－				
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策						
1 水資源保護		節水型水栓を採用		2.9/4.7		3.1
2 非再生性資源の使用量削減		－				
3 3.2 フロン・ハロンの回避		ODP=0の断熱材、冷媒を使用				
LR-3 ■ 敷地外環境対策						
2 2.2 温熱環境悪化の改善		地表面対策面積率45%以上		0.5/0.8		3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)			Rの平均点		3.4	
Q-2 ■ サービス性能対策						
2 2.2 部品・部材の耐用年数		配管の主要な用途上位3種の2種類以上にB以上を使用、Eは不使用		0.3/0.5		3.5
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策						
1 水資源保護		節水型水栓を採用		2.5/4.0		3.2
2 非再生性資源の使用量削減		－				
LR-3 ■ 敷地外環境対策						
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		適切な量の駐輪場、駐車場を設置		0.3/0.4		3.3
ヒートアイランド現象の緩和(H)			Hの平均点		2.6	
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策						
1 生物環境の保全と創出		川崎市緑化指針の基準以上の緑化を計画		1.1/2.3		2.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上		緑被率、水被率、中・高木の水平投影面積率30%以上				
LR-1 ■ エネルギー対策						
1 建物外皮の熱負荷抑制		等級4		2.4/5.0		2.4
2 自然エネルギーの利用		－				
3 設備システムの高効率化		仕様基準を満たす				
4 効率的運用		－				
LR-3 ■ 敷地外環境対策						
2 2.2 温熱環境悪化の改善		地表面対策面積率45%以上		0.5/0.8		3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 2.9

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要			実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。			
建設段階				
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	配管の主要な用途上位3種の2種類以上にB以上を使用、Eは不使用		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階				
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	— —		0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー				
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	等級4 — 仕様基準を満たす —		2.4/5.0	2.4

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄					全体
	G	W	R	H		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										2.9
Q1 室内環境							0.40		-	3.2
1 音環境						3.0	0.15	3.0	1.00	3.0
1.1 室内騒音レベル					—	3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音					—	3.0	0.50	3.0	0.50	
1 開口部遮音性能					—	3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能					—	-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					—	-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					—	-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音					—	-	-	-	-	
2 温熱環境						2.6	0.35	3.0	1.00	2.9
2.1 室温制御					—	3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温		W			—	3.0	0.63	3.0	0.63	
2 外皮性能					—	3.0	0.38	3.0	0.38	
3 ゾーン別制御性					—	-	-	-	-	
2.2 湿度制御					—	1.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式					—	3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境						2.5	0.25	3.7	1.00	3.5
3.1 昼光利用					住戸部分2.0%以上	1.8	0.30	3.4	0.50	
1 昼光率					—	1.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口					—	-	-	1.0	0.30	
3 昼光利用設備		W			—	3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策					カーテンと庇によりグレアを制御	1.0	0.30	4.0	0.50	
1 昼光制御		W			—	1.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度					センサーにより自動照明制御が可能	3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御					—	5.0	0.25	-	-	
4 空気質環境						3.2	0.25	3.3	1.00	3.3
4.1 発生源対策					内装材料のほぼ全面にF☆☆☆☆を採用	4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質					—	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気					—	2.0	0.40	2.3	0.38	
1 換気量					—	3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能					—	-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮					—	1.0	0.50	1.0	0.33	
4.3 運用管理					—	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視					—	-	-	-	-	
2 喫煙の制御					—	-	-	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	2.8
1 機能性						2.5	0.40	2.8	1.00	2.7
1.1 機能性・使いやすさ					—	3.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性					—	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応					—	-	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画					—	3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性					天井高2.5m以上	1.0	0.30	2.5	0.40	
1 広さ感・景観					—	-	-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース					—	-	-	-	-	
3 内装計画					—	1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理					内装に維持管理のしやすい建材を採用	3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計					—	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保					—	3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振					—	3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					—	3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能					—	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					—	3.5	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数			R		—	3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			R		—	3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			R		床:フローリング、壁:ビニルクロス、天井:ビニルクロス	4.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			R		—	3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			R		給水(VP)B、汚水排水(VP)B、雑排水(VP)B、Eは不使用	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			R		—	3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性					—	2.8	0.20	-	-	
1 空調・換気設備					—	3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備					—	3.0	0.20	-	-	
3 電気設備					—	3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法					—	3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備					—	2.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性									3.0	0.30	2.8	1.00	2.8
	3.1 空間のゆとり									-	-	2.6	0.50	
	1	階高のゆとり							-	-	-	3.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ							-	-	-	2.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり								-	-	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性									3.0	1.00	-	-	
	1	空調配管の更新性							-	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性							-	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性							-	3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性							-	3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性							-	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保							-	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)										-	0.30	-	-	2.7
1	生物環境の保全と創出				G	W		H	-	2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮				G				-	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮								-	3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上								-	3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W		H	-	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性											-	-	-	2.7
LR1 エネルギー										-	0.40	-	-	2.4
1	建物外皮の熱負荷抑制					W		H	-	3.0	0.20	-	-	3.0
2	自然エネルギー利用					W		H	-	2.0	0.10	-	-	2.0
3	設備システムの高効率化					W		H	-	2.0	0.50	-	-	2.0
	集合住宅以外の評価									-	-	-	-	
	集合住宅の評価									2.0	1.00	-	-	
4	効率的運用									3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価									-	-	-	-	
	4.1	モニタリング			W		H	-		-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制			W		H	-		-	-	-	-	
	集合住宅の評価									3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング			W		H	-		3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制			W		H	-		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル										-	0.30	-	-	3.1
1	水資源保護					W		R		3.0	0.20	-	-	3.0
	1.1 節水									3.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用									3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無								3.0	1.00	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無								-	-	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減									3.2	0.60	-	-	3.2
	2.1	材料使用量の削減			W		R	-		2.0	0.10	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用			W		R	-		3.0	0.20	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用			W		R	-		3.0	0.20	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			W		R	-		3.0	0.20	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材			W		R	-		2.0	0.10	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み			W		R	-		5.0	0.20	-	-	
										躯体と仕上材が容易に分別可能				
3	汚染物質含有材料の使用回避									3.0	0.20	-	-	3.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用									3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避									3.0	0.70	-	-	
	1	消火剤			W			-		-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)			W			-		3.0	0.50	-	-	
	3	冷媒			W			-		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境										-	0.30	-	-	2.7
1	地球温暖化への配慮					W			-	2.1	0.33	-	-	2.1
2	地域環境への配慮									3.0	0.33	-	-	3.0
	2.1 大気汚染防止									3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善				G	W		H	-	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制									3.0	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減					R	-		3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制					R	-		3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制					R	-		3.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制					R	-		3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮									3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止									3.0	0.40	-	-	
	1	騒音						-		3.0	1.00	-	-	
	2	振動						-		-	-	-	-	
	3	悪臭						-		-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制									3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制						-		3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制						-		-	-	-	-	
	3	日照障害の抑制						-		3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制									3.0	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策							-	3.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策							-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	7.0		○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0		-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	1.0		-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	5.0		-	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	11.0		-	1.0	1.0	3.0	-	2.0	-	2.0	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	8.0		-	-	-	2.0	3.0	-	-	-	3.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0		-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムS(-窓の日射熱取得率(η)-							
U値(W/m2K)窓システム-		屋根-		外壁-		床-	
住戸部分システムU値-		外皮UA値-		ηAC-		ηAH-	
屋光率4.9%							
自然換気有効開口比0.0%							

3.1.1 屋光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	.0㎡ / 人	病床	.0㎡ / 床	シングル	.0㎡ ツイン	.0㎡
コンセント容量	0.0 VA/㎡					
天井高	0 m					
リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	2.0%			
想定耐用年数	0 年					
想定必要間隔	0 年					
想定必要間隔	20 年					
想定必要間隔	0 年					
階高	0 m					
壁長さ比率	0.0%					
床荷重	- N/m2					

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数	73%	建物緑化指数	2%				
空地率	42%	水平投影面積率	12%	地表面対策面積率	37%	舗装面積率	0%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m		- 日射等性能等級		等級4 相当					
自然エネルギー直接利		0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数		0	採光を満たす住戸数		0	
			通風を満たす教室数		0	通風を満たす住戸数		0	
			太陽光		#REF!	太陽熱等	#REF!	蓄電池	#REF!
BEI/BEI _m		再エネ	-	無	-	オフサイト再エネ有		-	-
一次エネルギー削減		再エネ	0%	無	0%	仕様基準で評価する		-	

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率	0.0%				
特定調達品目E断熱材	エコマーク商品	-	自治体指定の特定品目等	-	
使用比率	0.0%				
オゾン層破壊係数(C	地球温暖化係数(GWP)				
オゾン層破壊係数(C	地球温暖化係数(GWP)				
オゾン層破壊係数(C	地球温暖化係数(GWP)				

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比		148% 棟間隔指標Rw		0.44	
地表面対策面積率		55.0%		屋根面対策面積率	
		2.0%		外壁面対策面積率	
		#DIV/0!			
見付面積Sb		628㎡ 越風向と直交する最大敷地幅Ws		45.29 m	
				基準高さHb	
				9.37 m	
緑地		460㎡		水面	
		㎡		保水性対策面	
		㎡		高反射対策面	
		㎡		再帰性反射対策面	
		㎡			